

わかやま

VOL.14 2012.6.8

景観・まちづくり新聞

県内の景観やまちづくりに関する取り組みについて情報をお届けします。
市町村やまちづくり団体の取り組みで記事がありましたら、ご連絡ください！

発行： NPO 法人 市民の力わかやま
監修： 和歌山県 県土整備部
都市住宅局 都市政策課
〒640-8585 和歌山市小松原通 1-1
TEL： 073-441-3228
FAX： 073-441-3232
E-Mail： e0809001@pref.wakayama.lg.jp
http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/080900/

「けやきガーデン」誕生

3月30日、和歌山県で初めての、官民協力による市街地再開発事業の「けやきガーデン」がけやき大通りに完成しました。すでに多くのメディアでも紹介されていますが、事業のポイントを和歌山市都市整備課に伺いました。

誕生の経緯 けやき大通りについて

JR和歌山駅から和歌山城を結び東西に伸びる「けやき大通り」は、大正12年からの歴史を持つメインストリートです。昭和5年〜46年は市電が走り、昭和36年にはシンボルとなっていたけやきが植えられ市民に親しまれてきました。現在においても、和歌山市の中心の通りです。「けやきガーデン」の付近は、JR和歌山駅から徒歩5分の便利な場所にありながら、土地の高度利用が図られています。

和歌山市では、中心市街地の人口減少、中心商店街の通行量減少などの空洞化の解消に取り組む



「けやきガーデン」全景



ために、当該区を含む約186haの区域で中心市街地活性化基本計画を策定し、平成19年8月に認定を受けました。

「けやき大通り第1種市街地再開発事業」

同基本計画に位置づけられた事業として、けやき大通りの歩行者の回遊性を高め駅前商業地の活性化と中心市街地の定住人口の回復を図り、けやき大通り活性化の中心的事業としてスタートしました。

商業棟「けやき1(ONE)」

昭和倉庫(株)が取得・運営しています。1階は店舗、2階はクリニックモール、3階は羽衣国際大学わかやまサテライト、4階は事務所と会議室です。外装に紀州材の間伐材を使用し、内装にも木材を多用し、利用者にぬくもりを感じてもらえるような建物になっています。

住宅棟「ボレスターけやき大通り」

(株)マリモが分譲を行い、78戸全部が竣工前に完成しました。共用部に紀州材を用いたキッズルームや、屋上緑化施設を備えています。

ホテル棟「ドリーミンPREMIUM(プレミアム)和歌山」

(株)共立メンテナンスが運営します。こちらも内外装に紀州材や、地元食材を活かした朝食など、わかやま県特産物を多く取り入れています。

この市街地再開発事業は、官民協力によるまちづくり事業です。事業費は商業棟・住宅棟・ホテル棟合計で約36億円、行政からの補助金が約11億円、民間資金が約25億円です。この事業により、新たに50人以上の雇用が生まれ、多くの人が利用するにぎわいの拠点となります。

「和歌山市のまちなか再生」その一

和歌山市のぶらくり丁を中心とした南海和歌山市駅からJR和歌山駅の間「まちなか(中心市街地)」は、泉南を含め商圏人口100万人と言われ、賑わっていたが、昭和50年代から陰りが見え始め、平成に入ると急速に空洞化が進み始めた。ぶらくり丁でも、空き店が増加すると共に、5万人、10万人以上あった来街者数は、現在では5千人(ほとんど通行人のみ)を切るという非常に寂しい状況となっている。

江戸時代には、人口は全国8位、徳川御三家「紀州藩」の城下町という歴史と伝統のある和歌山市の中心地を、われわれの時代に、このまま虫食い状の魅力をなくしてしまった状態で孫子の代に引き継ぐと思うと忸怩たるものがある。この「まちなか再生」は、われわれ世代の責任であり義務ではないだろうか。

感傷的なのはさておき現実的には、高齢化と人口減少が同時に急激に進んで、税収が減少し、逆にまちなかも郊外もスカスカのスポンジ状態になり、道路補修費なども含めた行政コストが大幅に上昇して今のような豊かな生活できなくなることが確実に予想される。従って、現在の様な豊かな生活を維持するためには、インフラが整った中心地に都市機能を集中し、住居も集中させ(IIコンパクトシティにすること)、行政コストを大幅に削減させる道筋をつけることが、すでに喫緊の課題になっている。要は、「まちなか再生」は進まねばならない道なのである。そうであれば、みんなで知恵を出し合い、みんなが住みたくなる、行きたくなる「まちなか」に再生したいものである。

NPO法人 市民の力わかやま理事

梶谷昭治 (続く)

連載コラム

高橋寛治が語るまちづくり(8)

「売らない・貸さない・こわさない」
国道19号線を岐阜県から長野県へ
入ると谷が一気に深くなり木曾谷
へとたどり着く。ここを南北に流
れる木曾川に沿っていたのが江戸
時代の五街道のひとつ中山道で
あった。ところが中山道41番目の
三留野宿(みどのじゅく)から妻
籠、馬籠の二宿は川筋から分かれ
て山中の峠道を越え岐阜へと南下
している。昭和30年代、この国道か
ら取り残された寒村「妻籠宿」は、
深刻な過疎化に直面しひっそりと
取り残されていた。当時の観光と
言えば京都や奈良が定番。修学旅
行に足を運んだ人も多かった。

昭和43年(1968年)長野県は
明治百年記念事業として妻籠宿保
存事業に取り組み、車社会から取
り残され妻籠宿の保存復元工事と
自然歩道中山道ルート新設工事が
実施された。これにより、昔をしの
ばれる町並みが生まれ、江戸期か
ら明治期、大正期にかけての建物
が連なる町並みが一新、そこから
建物と周辺の田畑や山林を含めた
一体的な景観保全が始まった。

この時、住民組織の「妻籠を愛す
る会」の中から生まれた地域を保
全する合言葉が「売らない・貸さ
ない・こわさない」である。建物を
無断で余所の人に売らない、むや
みに貸さない、古い建物は修復す
るのであり壊さない三原則であつた。
個々での活動を見ていると、

妻籠の中で町並みを保存すること
により「地域に『へそ』をつくらう。
山村の村人がここに暮らしている
ことを、そして自分が自分であるこ
とを認識できる『へそ』にふさわし
い中心と密度、その思想とたえずま
いをつくること。それが過疎化へひ
とつの有効な対策となるのではな
いか。」と読み取れる。そしてその思
想が普遍化し国が「重要伝統的建造
物群保存地区」という制度を創設
し、最初に選定される結果につな
がった。

この活動が引き金になり各地に町
並み保存活動が動き出し、ここで触
発されて育ってきた研究者も多い。
古いものを古いままで置くことに
は不便も伴う、また先進地であるが
ゆえに電柱も建物の裏側を通すな
ど苦勞も多かった。今では車で通る
ことは出来ないし美しさに磨きが
かかってきたが、その代償として整
備した大きな駐車場や住民の高齡
化などの課題をみてとれる。
休みなど人ごみの中を歩いている
と、保存と暮らし、景観を越えた景
観など新しいテーマを感じさせる
ところである。



高野山大学客員教授
埼玉大学教養学部非常勤講師
元高野町副町長

景観・まちづくりイベントの紹介

2012/06/17(日) 13:00~16:00 (和歌山市)
・「旧中筋家住宅と中筋家住宅」見学会と「和歌山の歴史的建
造物映像」上映会 主催者:和歌山市教育委員会

江戸時代後期に建設された大庄屋の屋敷で、国の重要文化財に登録
されています。今回は、当主 中筋正保氏のご厚意により普段は見る
ことのできない住宅内部を中西重裕氏の解説で見ることができま
す。先着順30名 参加費用300円

(場所) 旧中筋家住宅駐車場(旧中筋家住宅から南へ300m)
(申込み) 文化振興課(073-435-1194)、
土日は同住宅事務所(073-465-3040)

終了後(14:30-16:00)「和歌山の歴史的建造物映像上映会」が、
大広間であります。 1. 郭邸 2. 加田邸 3. 木綿邸

2012/06/28(木) 19:00~21:00 (和歌山市)
・「2030わかやま・まちのちから塾(仮称)」
第1回セミナー&セッション」 主催者:和歌山市都市整備課

第1回セミナー&セッションは、日米で数々のまちの再生を手がけた
実績を持つ、株式会社タフ・コーポレーション代表取締役社長であり、
森ビル顧問の藤後幸生氏を講師にお招きして、今まで思い浮かばな
かった視点から本市の現状についてお話をさせていただきます。

(場所) 和歌山商工会議所 4階 大ホール
(申込み) 都市整備課(073-435-1082)

詳細は、NPO法人 市民の力わかやまの
「みんなで作る情報板
わかやまイベントボード」をご覧ください。
http://eventboard.shiminjuku.jp/



海霧:けいこ furusato



粉河祭りの一コマ:きのむくま city!

平成23年度中に応募のあった500点を超
える作品群の中から、徳田先生に年間賞6
点と「ふるさとフォトグラファー賞」1点
を選出して頂きました。全ての作品は「きの
くに風景讃歌」のサイトでご覧ください。

「ふるさとフォトグラファー」年間賞発表

「きのくに風景讃歌」の「ふるさとフォトグラファー」のページでは、ふるさと和歌
山県のすばらしい景観や町並み、建造物、文化遺産などの写真を募集しています。
毎月フリーとテーマ別にコンテストが開催されていますが、この度、平成23年度年
間賞が決定しました。その中から2作品を誌上で発表します。

「景観・まちづくり新聞」のバックナンバー
は「きのくに風景讃歌」のサイトから
ダウンロードできます。

「きのくに風景讃歌」
http://www.kinokuni-sanka.jp/



NPO 法人 市民の力わかやま

〒640-8215 和歌山市橋丁21番地N2ビル3F
TEL/FAX 073-428-2688
URL http://shimin.or.jp/
e-mail info@shimin.or.jp
受付時間 月~金 9:30~16:30 ※土日祝休み